

# 名護屋城跡

～太閤の思い抱いて～

文禄・慶長の役は16世紀末豊臣秀吉によって起こされた朝鮮半島、中国大陸への進出を目指した侵略戦争です。

戦いは前後7年にわたり、戦禍は朝鮮半島全土に及びました。この戦争の出兵基地となったのが肥前名護屋城でした。戦いには全国の主だった諸大名のほとんどが参集し、朝鮮半島に近く天然の良港をもつこの地に、大都市が誕生しました。

名護屋城跡は、近世初頭の特徴をよく残す重要な城跡で、総面積約17万㎡は、当時としては大阪城に次ぐ規模でした。天正19年（1591）秋に始まった工事は、西国大名の分担によりわずか5か月足らずの翌年の春には主要部が完成したといわれています。

城の構えは、中央最上段に本丸を置き、中段にはそれを取り囲むように、二の丸、三の丸、遊撃丸、東出丸、弾正丸、水手曲輪があり、下段に、山里丸、台所丸を配置しています。門は大手口その他、5カ所あり、更に北側には鯨鉾池と呼ぶ堀があります。

鯨鉾池より先、海までは最盛期人口が10万人を超えていたと言われる城下町が広がっていました。

また、城跡周辺、約3kmの圏内に陣屋があり、それは鎮西町を中心として呼子町、玄海町にまで広がっており、陣主が推定されているのは約120箇所のうち半数で石塁や土塁などの残存が確認されています。

そのうち23の陣跡が特別史跡指定とされています。

そういう歴史ある城跡の天守台跡からの眺望は素晴らしく、快晴の時は杳岐をも見える広大なパノラマが楽しめます。馬渡島、加唐島、松島、小川島、加部島など多くの島々が、青々とした玄界灘に広がり、秀吉の大陸に思いをはせた燃える思いを味わうことができます。

青木月斗の句（S8） 「太閤が 睨みし 海の霞かな」

分野 歴史

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



名護屋城跡

(唐津新聞社より)



名護屋城跡(天守台跡)



名護屋城跡(石垣)

(唐津市フォトライブラリーより)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆鎮西町観光協会パンフレット／名護屋城跡ご案内
- ◆鎮西町リーフレット／特別史跡名護屋城跡並びに陣跡

◎エピソード・伝承・うんちく など

一方では文禄・慶長の役はそれまでの日本列島と朝鮮半島との長い歴史的交流関係を断絶させる不幸な出来事であったことを忘れてはなりません。名護屋城跡並びに陣跡は、この不幸な歴史の証人であると共に、地域の郷土史を物語る大切な文化財です。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)